

濁りなき心の水にすむ月は

波もくだけて光とぞなる

—道元禪師—

戦後五十年近く、多くの日本人は、ひたすら働くことに生きがいを感じてきたのではなからうか。その結果、物質的な豊かさを得ることが出来ました。そして科学文明の中にありながら、人間をしばりつけ、人生の真の姿から遠ざけてしまったような気がいたします。

その原因は、心の豊かさをなおざりにしてきたことではなからうかと思えます。今からでも遅くありません。私たちは、心豊かな生活を大切にすべきであります。今、静かに日常の生活を反省して生きていくことだと思います。

あと数年で二十一世紀であります。宇宙の時代、宗教・芸術の時代と言われております。

人間の悲劇を救うカギ、本当の幸福は地球以外にあるのではなく、地上の人間そのものであります。真の自由、幸福は、人間の自己の真実態に帰った時、清らかな心の世界にめざめた時に得られるものであります。

その心は「天よりも高く、地よりも深い」と言われております。そして、お釈迦さまの教えである「悪をなさず、善いことを行い、自らの心を浄め、大慈悲心をもって生きてゆくこと」であります。

人類の幸せの為に、濁りなき心の世界にめざめ、身と心をととのえて、人類の幸せに精進努力をして行きたいものであります。

解説

道元禅師は、折りにふれ、たくさん和歌を詠まれております。それらは、「傘松道詠」という名で親しまれています。その歌には、人間の心情や、自然がたくみに表現されていて、文学作品としても古くから高い評価を受けてきました。また一方では、仏の教えを端的に表し、真髓をズバリと指摘する力強さ、厳しさを句外に偲ばせております。日々の荒波にもまれる生活のなかにあっても、水の如く透明な心があれば、清らかな光明がその中に輝きいであることを、この句の中で道元禅師はお示しになっているのです。

濁りなき

心の水にすむ月は

波もくだけて

光とぞなる

道元禅師

曹 洞 宗

神奈川県第二宗務所
第五教区 布教部・出版部